

船尾楼甲板及船首楼甲板ノ周圍ニハ鉄製支柱ヲ四呎
以內ノ距離ニ立テ横ニ同製ノ円棒ヲ通シ上部ニハ槻製手
摺ヲ附スベシ
船尾楼甲板手摺ノ小口及隅ハ總テ眞鍮ヲ以テ包被ス
ベシ
支柱ハ舷梯錨其他必要ノ箇所ハ横円棒ト共ニ取外シ得
ヘカラシムベシ
主檣ノ前部右舷ノ舷檣板長約九呎半間ハ必要ニ應
ジ取外シ得ル様適當ニ構造スベシ
函面ニ示ス箇所ニ鑄鐵製「チーリングパイプ」ヲ附スベシ
二十、通水路
上甲板暴露部ノ両側ニ幅十八吋ノ通水路ヲ設ケ水密ニ填
隙スベシ。通水路ノ上ニハ槻製格子蓋ヲ備フベシ
二十一、機関台
機関臺ハ鋼板及二重山形材ヲ以テ作り船体ニ固着スベシ
推進臺ハ其推進迫力ヲ適當ニ船体ニ配布スルノ構造ト
ナスベシ。
汽罐臺ハ鐵板及二重山形材ヲ以テ汽罐力内竜骨ト充
「汽罐」の「汽」の原文字は氣の左にサンズイを付した文字
分ナル間隙ヲ有スル様ニ構造スベシ。「ピッチング」及「ローリング」ニ
對スル支柱ヲ設クベシ